

短報

アオダイショウのコシアカツバメ捕食例

佐藤広康¹

An example of *Hirundo daurica* eating by *Elaphe climacophora*

Hiroyasu SATO¹

Abstract: On 11 September 2014, a Japanese rat snake (*Elaphe climacophora*; Colubridae) about 500mm in head and body length was captured on the roof floor of the building No. 28 of Okayama University of Science. Forced regurgitation of the gastric contents ejected a red-rumped swallow (*Hirundo daurica*) 63mm in length from the base of the throat to the tail feathers. There was only the swallow; no other gastric content was confirmed. Upto date, there has been no report of the predation of any red-rumped swallow by the Japanese rat snake. The present finding likely contributes to further elucidation of the life history of the Japanese rat snake.

I. はじめに

アオダイショウ (*Elaphe climacophora*) は、ナミヘビ科ナメラ属に属する日本本土最大のヘビで、哺乳類や、鳥類、爬虫類、両生類を捕食するといわれている (Mori and Moriguchi 1988, 浜中ほか 2014)。これまで、アオダイショウが捕食した鳥類として報告があるのは、オオミズナギドリ (*Calonectris leucomelas*)、スズメ (*Passer montanus*)、オナガ (*Cyanopica cyana*)、イワツバメ (*Delichon urbica*)、ブッポウソウ (*Eurystomus orientalis*) などである (塩崎ほか 2014, 森 1996, 森口・鳥羽 2001, 宮崎 2001, 新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里 2014)。今回、岡山県で採集したアオダイショウの腹部が膨れていたため、胃内容物を強制嘔吐法によって確認したところ、コシアカツバメ (*Hirundo daurica*) 1 個体が確認されたので、ここに報告する。

II. 捕獲個体について

採集日時：2014年9月11日14時頃。

採集場所：岡山理科大学構内の28号館屋上で、地

表から屋上までの距離は15.6mである。建物の北側はダイミ山に接しており、コナラ (*Quercus serrata*) やアベマキ (*Q. variabilis*) が生育している。アオダイショウは屋外に設置された避難階段、もしくは、建物周辺に生育している樹木を利用して屋上まで移動してきたと思われる。

捕獲状況：天候は晴。屋上に置かれていた木製パレット (長さ約1.7m, 幅約1.0m) を動かした際に、出てきたところを捕獲した。

測定値：頭胴長約500mm。

個体：強制嘔吐法により胃内容物を確認したあと、捕獲場所に放逐した。

性別：不明。

III. 胃内容物について

標本：10%ホルマリンで固定後、70%エタノールで保存し、岡山理科大学に保管している。

測定値：喉元から尾羽まで約63mm。

摘出状況：胃内容物は、アオダイショウを捕獲した同日21時頃に強制嘔吐法により摘出し、尾羽か

1. 〒577-0066 大阪府東大阪市高井田本通7-5-22-605 Hondori 7-5-22-605 Takaida, Higashiosaka-shi, Osaka-hu 577-0066, Japan.



図1. アオダイショウから強制嘔吐法により摘出されたコシアカツバメ。矢印はコシアカツバメの腰部分にある赤色の羽を示す。スケールバー：10mm。 *Hirundo daurica* force-regurgitated from the stomach of *Elaphe climacophora*. An arrow shows red feather of *Hirundo daurica*. Scale bar=10 mm.

ら吐き出された。また、胃内容物には頭部がなく、喉元から尾羽までが確認できた。胃内容物の腰部分には、赤色の羽が確認できた点(図1)、アオダイショウが確認できた場所から高さ約4.2mの位置にコシアカツバメの巣が確認できた点から、胃内容物はコシアカツバメであると同定した。コシアカツバメは、大きさから、本年に巣立ちをした個体である可能性が高い。コシアカツバメの頭部は、アオダイショウにより、すでに消化されてしまったのか、頭部のない死体をアオダイショウが捕食したのかは不明である。なお、胃内容物は、コシアカツバメ1個体のみであった。

今回、コシアカツバメの捕食が確認されたことは初記録であり、アオダイショウの今後の生態解明に有用な情報であると考えられる。

IV. 謝辞

今回の報告を投稿するよう勧めて下さった森哲准教授(京都大学理学研究科動物学教室)、本稿の本稿をまとめるに当たり、様々なご指導をしていただいた高崎浩幸教授、小林秀司准教授(共に岡山理科大学理学部動物学科)に厚く御礼申し上げる。

V. 引用文献

- 浜中京介・森 哲・森口 一(2014). 日本産ヘビ類の食性に関する文献調査. 爬虫両棲類学会報 2014(2): 167-181.
- 宮崎 学(2001). フクロウ谷. com 宮崎学の列島自然報告 アオダイショウのイワツバメ定食. アサヒカメラ 2001年5月号: 140-141.
- Mori, A. and H. Moriguchi. (1988). Food habits of the snakes in Japan: A critical review. *The Snake* 20(2): 98-113.
- 森 生枝(1996). 岡山県自然保護センターの爬虫類. 岡山県自然保護センター研究報告 別巻第1号 生物相調査報告書(平成5年度・6年度): 87-90.
- 森口 一・鳥羽通久(2001)アオダイショウのオナガ捕食例. 爬虫両棲類学会報 2001(1): 7-8.
- 新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里(2014). 新潟県野鳥保護の集い. シジュウカラ(78): 2.
- 塩崎達也・白井正樹・大杉雅人・山本麻希・依田 憲(2014). 観察記録 新潟県粟島におけるイエネコ等によるオオミズナギ雛の捕食. 日本鳥学会誌 63(1): 75-78.

(2016年10月15日受理)